

令和二年 早春のご挨拶

例年なら元旦にご挨拶を申し上げますとともに、1年の総括をしているところですが、今年は国体ボケのためか大変に遅れ3月になった今になってしまいました。



さて、令和になって初めての冬山シーズン幕開けの正月も無事に過ぎ、皆様におかれましては山へあるいは競技へと今年の目標に向かってそれぞれ邁進し始めたことと思います。

国体の仕事のために我慢していた雪山を、今年の正月は十分に楽しんできたというどこかの山岳会の話も聞こえてきましたが、大騒ぎした昨秋の茨城国体「ゆめ国体」も終わり、本来の登山活動やクライミング練習に励む日々に戻りつつある毎日かと思います。

それにしても昨年の国体開催は、大きな祭礼が迫ってきたような切迫感と慌たしさの中で、各会の皆様には大変なご苦勞をかけてしまいました。お陰様で運営についても競技成績についても申し分のない結果を残すことができました。

ただ、すべてが終わった今、県の関係機関の方々や新聞などで優勝した選手個人だけが特別に脚光が浴びる中、競技別で総合優勝はしたものの種目別で優勝者を出せなかったのは本当に残念でなりません。選手の皆さんにとってはセッターとの相性や不運などで実力が十分に出切れなかったこともありましよう。昨年の国体ばかりでなく長い間、県代表として参加してこられた沼尻琢磨氏、野村真一郎氏、野口啓代さん、小林由佳さん、石田諒君、森秋彩さん、菊池野音さんには「県民の名譽のため長い間ご苦勞様でした」とねぎらいたい気持ちでいっぱいです。また、初参加ながら素晴らしい活躍をした田中慧樹君には「よく頑張った」と将来への期待を込めて称賛したい気持ちでいるのは私ばかりではないでしょう。

昨年は国体以外でも大きなニュースがありました。それは茨城国体でも活躍した野口啓代選手の東京オリンピック代表内定第1号の発表でした。昨年の野口選手の活躍は国体ばかりではなく数多くの国際大会で常に上位で活躍しており、今夏の東京オリンピックでは是非、金メダルを取ってスポーツクライミングと茨城の名を高めてもらいたいと願っています。また、オリンピック代表のもう1枠を争って国内外の大会などで大活躍をしている森秋彩選手の存在も注目です。残り1枠の日本代表決定をめぐるっては、現在、JMSCAと上部機関との争いで関係選手たちに不安を与えていることは残念でなりません。このほかでは、一昨年頃から国際

大会や国内大会で常に上位で活躍するようになってきた今泉結太君、ジュニアオリンピックカップ大会、関東小中学生選手権大会などで活躍目覚まい佐藤悠織君や村越佳歩さんなどの今年の活躍も目を離せません。

昨年は、国体という大きなイベントがありましたので、岳連の仕事の大半が国体開催と選手強化事業に傾いていましたが、国体以外でも例年通りの岳連の活動がありました。指導委員会担当では、山登りの基本を習得するための冬山講習会や岩登り講習会が行われました。これらの講習会は、これまで何十年も継続されており、県内の岳人たちの登山技術の向上に果たしてきた役割は計り知れないものがあります。2月と5月に行われたそれぞれの講習会には受講者10名ほどではありましたが少数精鋭での講習は所期の目的を果たすには十分だったと評価されます。また、昨年新たに企画された2月の千葉・茨城岳連合同雪山交流山行や8月の茨城岳連内交流登山はそれぞれ参加者十数名に止まりましたが、これまでの1つの会に限定された山行だけでなく、岳連による交流登山を入れたオープンな山行企画を取り入れ継続させることは、これからの若い岳人を育てていく一つの方策であるかもしれません。また、指導委員会ではこれらの他、アルパインクライミング講習会やハイキングレスキュー講習会なども企画し、公的外部団体であるスマイル東海ハイキング会からの要請で年6回もの山行指導も、安全登山の普及に一役買っています。

自然保護委員会も日山協自然保護委員会と歩調を合わせ活発に活動しています。特に県内の筑波山や高鈴山・神峰山など主な山々の清掃登山会を催し、山やハイキングコースの美化と登山マナーの向上に努めています。地味な活動ですが登山活動の基本です。

海外登山委員会では、スペイン巡礼「北の道」歩行旅を実施し、ニュージーランド「Mt クック」登山も視野に入れ着々準備中です。

笠松運動公園のクライミング施設では、数回の笠松認定講習会や笠松スポーツ教室、笠松スポーツフェスティバルなど、多くの受講者や参加者を指導した他、国体の会場地である鉾田総合公園体育館でも数度となくクライミング講習会を開催し、国体気運を盛り上げ、底辺拡大やその普及に努めました。これら関係者の方々には繁忙の中ご協力いただきまして、頭の下がる思いでした。

また、残念なこともありました。昨年3月には谷川岳白毛門でACC-J会員の木村さんの滑落事故のニュースが入ってきました。ベテランのまさかの事故で、かつての本園氏の5月の穂高岳での事故を思い出した人も多かったのではないのでしょうか。各会とも事故の無い様、十分な訓練と注意の喚起を更にお願ひするところです。

今年もまた、4月早々の理事会から新年度が始まりますが、早急に解決しなければならない「お岩山」での岩登り練習の自肅の課題解決をいつまでもほっておけません。岳連傘下団体の多くの会員の切なる願いでもあります。副会長の田所氏をはじめ理事長の椎名氏等が、一刻も早く解決しようと動き出しています。

全国的な動きとしての岳連の法人化や名称変更の問題など、たくさんの課題が山積していますが、コロナウイルスによる行事・事業の自肅要請によるマイナスを克服して、今年も茨城岳連の更なる発展のためにご協力・ご支援を昨年同様よろしくお願いを申し上げます。

令和二年三月三日
茨城県山岳連盟
会長 二階堂章信